

内川流域とは？

内川とは、東京の南部、大田区に位置し、大森地区の東海道本線付近からほぼ直線的に東流し、東京湾に注ぐ、流路延長1.55km、流域面積3.25km²の二級河川です。

その流域は、大田区中馬込・東馬込・西馬込・南馬込及び品川区西大井地区にまたがっています。



内川流域図

流域の特徴

内川の流域は、市街化率は約80%で、東京都内でも人口密度が高い地域です。現在は、JR東海道本線より下流が法定河川区間として定められ、その上流は下水道の幹線として整備されています。池上通り付近より下流域は、背後地盤が低く下水道のポンプ排水区域として整備され、雨水は内川へ流入せず東京湾へ直接排水されているため、法定河川区間と流域が完全に離れているという特徴があります。

内川は、水源を持たないため、平常時は、河床等からの滲出水が僅かに見られる程度で、水位は潮汐に応じて変動します。河口部には高潮対策として内川水門と排水機場が整備されています。

環境と利用

内川の河岸は、コンクリートや矢板の直壁護岸となっており、転落防止用のネットフェンスが設けられ、水辺に近づきにくい河川です。河口部には干潟があり、鳥類や魚介類の生息場となっています。

また、内川下流部には、ブレジャーポート等の船舶の係留場所として利用され、今後、放置船舶を撤消し、安全な公共水域を確保する対策を検討していきます。

内川河川整備計画の概要

河川整備の目標

内川流域では、高潮、洪水及び地震に対する安全性を向上させるとともに、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、河口(大森東二丁目)から東海道本線(大森西四丁目)に至る1.55kmの区間(法定河川区間)で、河川整備から維持管理に關することも含まれています。

計画期間は、おおむね30年としますが、川をとりまき状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備

治水

・・・洪水、高潮及び地震による水害の防止

内川の沿川は、地盤が低く軟弱なため、大地震等の自然災害に対して極めて弱い地域となっています。洪水に対しては、下水道から内川への放流量18m³/sに対して安全であることを目指します。

高潮に対しては、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風により発生する高潮(A.P.+4.1m)に対して安全であることを目指します。

また、大地震時の護岸損傷による水害を防ぐため、護岸や水門・排水機場等の耐震性の向上を図ります。

環境

・・・河川環境の保全、創出、再生

河川の整備にあたっては、人々が集い水辺にふれあえるところとともに、河口部の干潟の保全や管理用通路等の植栽等、魚や水生生物に配慮した、生きものにやさしい河川を整備します。



位置図



三ツ木橋から上流の現況



JR東海道本線付近の状況



河口部：干潮時に出現した干潟



耐震区間の現況 (内川橋から下流)

親水性の向上を図ります。



四之橋から下流の現況



内川における親水護岸の整備例 (新橋下流付近)